

## 25年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 11月20日～ 12月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
12月分の回答企業数は16社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 21.4	△ 21.4	△ 25.0
	マツ	△ 16.7	△ 20.8	△ 20.8
	広葉樹	0.0	△ 3.1	△ 6.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 12.5	△ 4.2
	マツ	4.5	△ 9.1	△ 9.1
	広葉樹	0.0	△ 3.3	△ 6.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 19.2	△ 23.1	△ 26.9
	マツ	△ 36.4	△ 27.3	△ 22.7
	広葉樹	△ 30.0	△ 20.0	△ 20.0

入荷はスギ・ヒノキ及びマツ共に減少傾向で推移、広葉樹は12月の横ばいが1,2月はわずかな減少に。  
消費はスギ・ヒノキは減少傾向で推移、マツ及び広葉樹は12月の小さなプラスないし横ばいが1,2月はやや減少に。  
在庫は全ての品目が減少傾向で推移。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
スギ・ヒノキ	3.6	3.6	3.6
マツ類	0.0	4.5	4.5
広葉樹	0.0	0.0	0.0

原木価格はスギ・ヒノキ及びマツは小さなプラスないし横ばいで推移、広葉樹は横ばいで推移。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)

・広葉樹はチップ生産割当量がやや増加傾向、生産に伴った仕入調整。計画に基づく在庫調整。・公共事業が増えているせいか支障木等の広葉樹伐採増えつつある。  
・仕入は、スギ・ヒノキは時期良くなく出ているが出材量は少ない、マツは用途が少ない松くい虫でマツが減少、広葉樹は変動なし。消費はスギ・ヒノキは製紙会社使用減。在庫は製紙用が減産状況であるが、それ以上に原木入荷が悪い。・天候回復し、入荷増。3月頃のベタ雪で入荷減の心配から更なる増集荷をかける。在庫見込みは2～3月の積雪で全体に横ばいと予想(スギ3カ月→3.5カ月、マツ3カ月→3カ月、広葉樹1カ月→1.5カ月)。・天候の影響が出ると予測。12月は燃料用チップが出荷できず消費減少。在庫は横ばいあるいはやや増加。・入荷は、国有林システム販売材はFIT対応発電事業者へ優先的に割り振られたため入荷なし。当面民有林等の林地残材の持ち込みのみ。広葉樹は支障木を主に変わらない。マツは少量。消費は、広葉樹は増産依頼で順調、置き場が満杯という状況は解消した、スギも例年より多く消化できる見通しでシステム販売材の入荷がなくなる分在庫減少する。在庫は広葉樹増産中のため減少、古い材の回転ができた。針葉樹も多めに消化し在庫減少。仕入はカラマツが減少。・合板材の荷動きが活発で広葉樹の入荷が少ない。消費は変化なし。・国有林生産請負が遅れているがこれが終了して広葉樹チップの入荷を期待している。消費は在庫少ないので入荷量を見極めながらすすめる、在庫少なく先行きが不安。・降雪、年末年始で入荷減少、製紙会社の針葉樹チップ受入れ一時停止で生産減少その間マツチップ生産が増加、在庫は降雪で減少。・針葉樹出材量大幅減少、FIT用に流れている、FIT参考単価7,000～7,500円/生トン、広葉樹は開発工事の増加で出材量やや増加、増産のため原木消費量増加、在庫は針葉樹減少、広葉樹増加。・市場に原木が少ない、バイオマスエネルギーに流れているようだ。・仕入れが減少するのは建築関係の用材値上がりで伐採が広葉樹に移行したため、消費は生口同様、在庫は広葉樹減り、針葉樹増え、在庫は広葉樹減り、針葉樹増え

(原木価格)

・スギは今月も若干値上がり、徐々に横ばいで推移すると思われる。広葉樹は変動なし。・今後、木質バイオマス等の需要もあり、その動向見ながら購入価格を検討する必要。  
・変動なし。・仕入れ値変わらず。・変動なし。・買入価格に変更なし。・先月と変わらず。立木の買受が出来ない、チップ価格の値上げを期待。一部の会社がFIT用原木買い占めている。・前月同様。

## 25年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 11.5	8.3	0.0
	マツ類	0.0	△ 9.1	0.0
	広葉樹	0.0	10.0	6.7
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 3.6	10.7	0.0
	マツ類	4.2	△ 8.3	△ 4.2
	広葉樹	3.1	6.3	3.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 37.5	△ 33.3	△ 25.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 15.0
	広葉樹	△ 30.8	△ 26.9	△ 23.1

スギ・ヒノキの生産動向は12月のやや減少が1月の小さなプラスを経て2月には横ばいに、マツは12月の横ばいが1月の小さなマイナスを経て2月には横ばいに、広葉樹は12月の横ばいが1, 2月はやや増加に。スギ・ヒノキの出荷動向は12月の小さなマイナスが1月のやや増加を経て2月には横ばいに、マツは1月の小さなプラスが1, 2月は小さなマイナスに、広葉樹はわずかに増加傾向で推移。チップの在庫動向はいずれの品目も減少傾向で推移。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し) W.

品目	25/12月	26/1月	2月
スギ・ヒノキ類	△ 3.6	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキチップの出荷価格は、12月の小さなマイナスが1, 2月には横ばいに、マツ及び広葉樹は横ばいで推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

・生産・出荷は、飼料・敷料用スギチップは当月は注文増、広葉樹は取引先のチップ在庫減少に伴い生産数量割当やや増加で推移。広葉樹の在庫はなし。・製材用として広葉樹チップ55%、針葉樹チップ45%の比率。日産100 t。毎日ほぼ同量を出荷。在庫はマツ類減少するが他樹種は横ばい状況。  
 ・生産はスギ・ヒノキは製紙受入れ減にて生産減、マツ、広葉樹は変動なし、出荷は製紙受入れ減のため生産減。・広葉樹は入荷増となったが12~3月は生産出荷調整、燃料チップ出荷は12月やや増加。・12月はスギ、ヒノキの燃料用チップが出荷できないため生産減少。製紙用チップは納入制限と雪の影響が出るものと予想。  
 ・生産は、製紙用広葉樹は増産。スギ・ヒノキは例年より多く出荷、1月は増産依頼あり。FIT対応発電用は少量ながら出荷。チップ在庫はしていない。・先月とかわらず。・チップ原木入荷不足で計画生産ができていない、出荷は今の所加工、運搬共に順調だが寒さが増すと思うように出荷できない。・年末年始で生産減少。・針葉樹原木チップは原木の減少に伴い増集荷基調、針葉樹チップは増出荷基調、燃料チップの出荷量増加せず。木くず受入れ制限中。在庫は針葉樹チップは減少、広葉樹チップは在庫なし、燃料チップ在庫大幅増。・来年にFIT立ち上がる予定、燃料用増えるかもしれない。・製紙会社の輸入チップの動向による。

(木材チップ価格) ・相変わらず輸送コストは厳しい状況にあるが引き続き値上げ交渉はしていかなければならない状況。

・製紙用で一部会社にて値下がりあり。・価格変わらず。・変動なし。  
 ・変化なし。FIT向けの出荷価格はこれまでの原木価格でないと採算とれない、国有林システム販売が高値で採算取れないと思う、発電用チップ価格の二重価格かもしれない。・先月と変わらず。針葉樹、広用樹とも横ばい。・円安にもかかわらず値上げ無し、紙の需要が落ちているのか? ・前月同様。